平成29年度　学校自己評価表　　米子松蔭高等学校

学校教育目標　　「社会で真に役立つ実践的な人材の育成」
①　自主自立の精神の涵養 責任と義務を尊重しつつ、自ら進んで目標に向かって努力する精神を養う。 ②　人間性の陶冶 規律を守るとともに、人の苦しみや悲しみを正しく理解し、適切な行動のできる豊かで調和のとれた健全な人格の育成をめざす。 ③　勤労を尊重する精神の育成 勤労を尊重する精神を養い、社会に貢献しようとする意欲を育成する。 ④　進路指導の充実 生徒の興味・適性・能力を尊重し、適切な進路の決定ができるよう指導の充実を図る。 ⑤　学習指導の充実 わかりやすい授業を心がけ、生徒の適性に応じた指導に努める。 ⑥　生活指導の充実 生活面の指導を大切にし、正しい服装容儀、規律ある生活態度で生きる姿勢を育成する。 ⑦　部活動の充実 顧問と生徒が目標に向かって共に努力してゆく中で、協調性・責任感・忍耐力を養う。

本年度の重点目標
建学の精神に基づく特色ある教育を行い、社会に有為な人材育成に努める。知・徳・体のバランスがとれた人作りを目標とし、学習指導、生活指導、部活動に力を入れる。生徒の人間的成長を促し、生徒・保護者の夢につながる進路指導を行い、その成果により本校の社会的評価が高まり、本校が発展することを目標とする。

評価について　　A　達成できた　　B　概ね達成できた　　C　やや不十分な点あり　　D　かなり改善の余地あり　　E　全く不十分　　(　)評価せず または 評価できず

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教務部	○（教務） 生徒による授業アンケートの実施など学習指導の充実に取り組んだ。また、年間行事の見直しにより授業時間の確保もできた。生徒が朝読書の時間を有効に活用できるよう工夫が必要である。	○ 学習指導の充実をさらに図る。	○ 授業アンケートの実施と相互授業見学を行い授業力向上をはかる。	B	○ アンケートは第1回を実施した。授業見学は全員参加となっていない。2学期は工夫する。	A	○ 相互授業見学は、ICTを活用した授業の公開期間をうまく活用しすべての教員が授業見学をした。	○ ICT活用を増やすなど、継続して研鑽をつむ。
		○ 授業時間の確保に努める。	○ 講演会・研修会など行事の効果を再検証し、年間行事を計画する。	A	○ 1学期の授業時間は最大限確保した。2学期以降の学校行事を検証する。	A	○ 学校行事の時期を再検討し、次年度の年間計画を作成した。	○ 学科改編にともなう授業時間帯変更などに対応する。
		○ 朝読書企画の定着を図る。	○ 生徒の自発的な活動となるよう、クラス役員に協力を求める。	B	○ 夏休みが明け、すぐに学習環境が整うように朝読書の時間を有効活用したい。	B	○ 定期考査や検定試験の前には自学自習に取り組む姿も見られた。	○ 落ち着いた朝の時間を過ごせるよう継続して取り組む。
	○（図書） 授業、学校行事等と連携した展示を行った。 蔵書構成を見直し、「授業で使える」資料のさらなる充実を図った。	○ レファレンス（資料相談）の充実を図る。	○ 生徒、教職員が求めている情報を迅速に提供する。 インタビューや接遇など、司書としてのスキルの向上に努める。	A	○ 丁寧なインタビューを心掛け、迅速な情報提供に努めた。 様々な機関と連携を図り、多様な資料、情報の提供につなげていきたい。	A	○ レファレンスを利用する生徒が増加したため、より迅速な情報提供に努めた。レファレンス内容を生かして、生徒、教職員に今後必要とされるであろう情報を予測した選書と蔵書構成につなげた。	○ レファレンスについての情報カード等を作成し、生徒、教職員自身でも求めている情報にたどり着きやすいようなシステムをつくる。
		○ 図書館の授業支援の見直し、回数の増加に努める。	○ 様々な教科と連携し、多様な授業支援に努める。 教職員に向けた図書館の広報に努める。	B	○ 多様な授業支援を心掛け、回数の増加に努めた。今学期は効果的な広報に努めたい。	B	○ 多様な授業支援を心掛け　教科、単元も増加してきた。広報については工夫をし、より多くの教科で図書館が関わることができるよう努めたい。	○ 授業支援をした教科の単元については、次年度以降も継続的に行い、より良い支援ができるように教職員との連携に努める。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒指導部	○ 挨拶、服装、学校規定鞄の使用、校内での携帯電話使用の禁止、社会ルールやマナーの理解については、全校集会での訓話や生徒指導部および担任の指導を中心に、継続して根気よく指導中。	○ 基本的生活習慣を身につけさせる。	○ 新入生合宿を通して学校生活に早く慣れさせる。 ○ 挨拶の徹底を全校集会やルームなどで呼びかけるとともに、通学指導などで教員からも積極的に声をかけてもらうようにする。 ○ 服装規定の遵守のため服装指導を徹底する。 ○ 社会のルールやマナーを理解し守るよう指導する。	B	○ 継続してルーム、通学指導などで声かけをする。 ○ 基本的マナーについて全校集会、学年集会などで指導を行う。 ○ 様子を見て、立ち番指導を増やすなど、粘り強い指導を行う。	B	○ 新入生合宿で、学校生活に早く対応する効果は出た。 ○ まだまだ積極的に挨拶ができないので、引き続き指導していく。 ○ 特に男子のネクタイができていない生徒が目立った。 ○ 交通ルール違反もあり近隣の方などに迷惑をかけた。	○ 新年度より新入生合宿が廃止され学校でのオリエンテーションとなるが、今まで同様有意義なものとなるよう指導を行う。 ○ 挨拶、服装、学校規定鞄の使用、校内での携帯電話使用の禁止、社会ルールやマナーの理解については、全校集会での訓話や生徒指導部および担任の指導を中心に、継続して根気よく指導していく。
	○ 全校集会でに呼びかけやクラスでの担任指導を継続している。 ○ 被害者情報の提供と注意呼びかけ、交通ルール遵守の指導を継続している。	○ 生徒が安心して通うことができるよう指導に努める。	○ いじめを許さず、見逃さない。 ○ 登下校中に事故の事故や被害に遭わないよう安全指導を徹底する。	B	○ 生徒の言動に変わった様子はないか注意する。 ○ 交通ルールについて再度徹底する。また、立ち番指導も時折行う。	B	○ 普段より担任を中心に生徒の状況を把握して、概ね適切に指導・対応ができている。 ○ 交通安全指導は十分におこなってきたが、成果が出ておらず今後の検討課題である。	○ 被害者情報の提供と注意呼びかけ、交通ルール遵守の指導を継続して行う。特に立ち番指導を強化していきたい。
		○ 問題行動に対して迅速適切に対処し、生徒の立ち直りと問題の拡大防止をはかる。		B		A	○ 迅速に対応できた。	○ 引き続き関係教員との連携を密にして対処・指導を行う。
	○ 引き続き関係教員との連携を密にして対処・指導を行っている。	○ 全教員で指導に取り組み温度差をなくす。	○ 生徒指導は基本的に全教員で行うことを確認する。	B	○ 再度、教員間での認識確認を行う。	B	○ 今以上に全教員での学校規則の把握を徹底させる必要がある。	
	○ ホームページの有効活用を呼び掛けている。 ○ 来年度は学校視察を行い、本校の生徒指導の役立てたい。	○ 保護者の理解を得て、協力してもらうようにする。 ○ 学校視察を行う。	○ 保護者への文書配布や松萌会活動との連携を密にする。 ○ 生徒指導を徹底して行っている学校の視察を行い、本校の指導に役立てる。	B ( )	○ まちこみメール、ホームページを有効利用してもらう。 ○ 2学期以降予定	B ( )	○ 家庭の協力を概ね得られていると思う。 ○ 本年度は実施せず ※私立学校協会学校視察へ参加	○ ホームページ・まちこみメールを有効活用してもらう。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
就職指導部	○たとえ好景気であっても、評価が「A」であっても大切なことは「生徒の能力・適性に応じた受験先の指導」で企業のネームバリューではない。生徒・保護者に理解を促したい。	○ 生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に応じた進路指導に努める。	○ 「進路総合評価」「進路適性検査」を参考にし、担任又は就職・教育支援担当者、カウンセラー及び部活動顧問、家庭さらに関係機関との連携を密にしながら、個別面談を重ね、適切な進路指導に努める。	B	○ まだ途中ではあるが、生徒の能力・適性に応じた受験先の指導に努めている。	A	○ 求人数が多い年でもあったので、生徒個々の能力・適性にあった企業のマッチングがスムーズであった。	○ たとえ好景気であっても、評価が「A」であっても大切なことは「生徒の能力・適性に応じた受験先の指導」で企業のネームバリューではない。生徒・保護者に理解を促したい。
	○生徒には早め早めの方向性の確立し、夏休み中の企業見学を促す。また、好景気故に安易な内定・選定がなされないように配慮していきたい。	○ 職業観の養成に努める。	○ LHRを活用した進路学習・進路講話及び合宿、見学、体験、業者によるセミナーを通し、生徒が自主的積極的に自分の進路に向けて行動できるように導く。また、本年度は進路合宿の意義を教員目線、生徒目線、企業目線で熟考し、必要性の方向性を模索したい。	B	○ 6月・7月での保護者向け説明会・生徒向け講話など、あらゆる機会で応募前の会社見学の大切さを説明してきた。今後も2社目受験の生徒については応募前の見学をさせたい。	B	○ 応募前職場見学させ受験するよう促し、納得して応募させているつもりでいたが、応募前職場見学しても、しっかりと企業研究が出来ていない生徒もいるようである。今後の課題としたい。	○ 生徒には早め早めの方向性の確立し、夏休み中の企業見学を促す。また、好景気故に安易な内定・選定がなされないように配慮していきたい。
	○誰の為の勉強で、なぜ努力が必要なのかを伝えることに力を入れたい。	○ 学力向上に努める。	○ 就職問題集・漢字テキストを配布し家庭学習を推し進めながら、基礎力診断テスト及び毎週行なう漢字テストで実力を把握し、「パワーアップ講習」「就職特別講習」「就職夏期講習」等で補い、就職試験に備える。	B	○ 学校での取り組みは成果をあげている。また、もっと家庭学習を充実させる必要がある。	A	○ 最低限の学力は入社試験で必要な要素で、入社後も実務で問われる場合もあり、学力面で生徒たちが就職先で苦労する事が予想される。早期から試験対策をして内定につながる様に今後も指導していきたい。	○ 誰の為の勉強で、なぜ努力が必要なのかを伝えることに力を入れたい。
	○就職するという心構えを再度伝えることに力を入れたい。	○ 早期退職防止に努める。	○ 県内外の卒業生の就職先を訪問し、追指導を行なう。また、旧担任及び部活動顧問と連携し、仕事の継続を説く。尚、在学中は内定者を対象にした校長訓話・進路講話等行ない、定着するように導く。	C	○ 残念ながら、今年も早期退職者がでた。「忍耐力」の一言で片づけられない内容もあり、実状をリサーチする必要がある。	A	○ 早期退職は予想より少なかった。企業の新入社員の指導制度も充実しつつある。学校でもこれからも早期退職防止の追指導を行い、企業との関係を強化していきたい。	○ 就職するという心構えを再度伝えることに力を入れたい。
	○社会に出てから生徒達が困らぬように、コミュニケーション能力育成についてまずは教員が深く掘り下げて勉強する必要がある。今後も2年生進路学習LHRの内容を強化したい。	○ コミュニケーション能力の向上に努める。（企業が一番求めているもの）	○ 学校全体指導体制で行なう。昨年同様就職指導部としては早めに（2年時に）LHRなどを活用して、コミュニケーション能力の養成を行なう。	B	○ 3年生は2年次よりLHRを利用して強化している。2年次よりスタートし始める体制はいいと思うので本年度も具体的に実行に移せるよう学年部と相談して行く。	A	○ 好景気を背景に新入社員の教育の仕方にも賛否両論ある。新しい文化がすぐに生まれる時代なので、教員側の勉強・理解も必要不可欠である。上手に取り入れコミュニケーション能力の向上に努め、企業側の思惑も理解させたい。	○ 社会に出てから生徒達が困らぬように、コミュニケーション能力育成についてまずは教員が深く掘り下げて勉強する必要がある。今後も2年生進路学習LHRの内容を強化したい。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
進学指導部（普通科）	○進学説明会における講演内容など、保護者・生徒が必要としている情報に基づいた内容を検討する必要がある。 また、指導部、担任、教科担当間での情報交換、共通理解を通じ、より適切な進路指導が行える連携の態勢をさらに強化・充実させる必要がある。	○ 指導部、担任、教科担当、そして保護者間の連絡・連携をより密にする。生徒一人ひとりに対するきめ細やかな進路指導を行うことにより、生徒の目標達成の可能性を広げる。	○ 進学説明会や講演会、保護者懇談会を催し、保護者への情報の提供と共有を深める。 定期的に普通科担当者で連絡会を設け、情報交換を行うことでより適切な指導を目指す。 必要に応じて個人面談を行い、学習や部活動・志望進路の状況を把握し、適宜指導が可能な状況を作る。また今年度からICT教材を導入し、生徒に対する個別指導の充実を図る。	B	○ 保護者説明会や進学講話で、必要な情報を保護者・生徒へ提供できたと考える。 担当者間の連絡協議の場の設定が困難な状況であったが、今後は3年生の受験も始まるため、出願指導等も含めて担当者間の共通理解をより深め、情報交換できる機会を増やす必要がある。 今後も生徒の状況の把握に努め、さまざまな進路情報誌などを活用し、生徒の進路学習に役立てることを目指す。	A	○ 進学説明会や進学懇談会などを通じて、保護者生徒への必要な情報の提供を行うことができた。 ○ 3年生の受験指導など、進路指導において指導部での情報交換、連携を図ることができた。また「スタディサポート分析報告会」を実施し、生徒の現状把握と今後の対策について検討する機会を持つことができた。 ○ 担任による個人面談、また総合的な学習での進路指導を通じ、生徒の進路志望の状況の把握を行うことで指導に役立てることができた。	○ 進学説明会における講演内容など、保護者・生徒が必要としている情報に基づいた内容を検討する必要がある。 ○ 普段から積極的に情報交換を行い、共通理解を図りながらより適切な進路指導が行える態勢を作る必要がある。 ○ 担任との面談の結果、指導が必要と思われる生徒については指導部との連携のもとに適切な対応・指導ができる態勢を強化する必要がある。
	○学習習慣の確立とともに、いかに学力の向上・定着を図るかについての検討が必要と考える。また、各種検定の積極的な受験を促すことで学習のモチベーションを上げていく事が必要である。	○ 継続的な学習習慣、目標を定め主体的に学ぶ姿勢を確立させることで、受験やその後の勉学に対応し得る学力の向上と定着を図る。	○ 授業を中心とした学習活動、また放課後講習や課題にICT教材を導入し、主体的かつ継続的な学習習慣を身につけさせる。 各種検定試験や模試を積極的に受験し、資格取得と自ら学習目標を設定しその達成に向け努力する姿勢を身につけさせる。	B	○ 模試を学習到達の一つの目標に据え、日々の授業と自学自習への真摯な取り組みをさらに喚起する。 また今年度より取り入れた動画による学習教材については、生徒によって活用状況に差があるため、今後の指導が必要と考える。また検定についても勉強への主体的取り組みのひとつとして、科全体で推奨していく必要がある。	B	○ 担任と担当者間の連携、またICT教材の活用を通して生徒の学習状況の把握を行い、学習の習慣化と定着を図ることができた。 ○ 1月の漢字検定は1、2年生の多くが受験した。指導時間不足など検討すべき問題はあるが、語彙・読力検定など、今後もできるだけ各種検定受験に臨ませるようにしたい。	○ 課題教材を工夫し、それを適切に授業に組み込み生かしていく方法を模索することで、いかに学習習慣をつけ学力の定着を図るかについての検討が必要と考える。 ○ 各種検定の積極的な受験を促すため、全員受験の実施を前提に、受験時期や指導内容を検討する必要がある。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
進学指導部（専門学科）	現在固定で実施している進路ガイダンスについて、より効果的な時期や形式などを検討したい。	○ 生徒一人一人の進学への意識を高めていき、目標設定を明確にし、進路の保証に努める。	○ ガイダンスを定期的に行い、進学情報の提供を行うことによって、様々な入試形式の正しい理解と、目標とする分野・学校の研究および比較検討の機会を作る。 ○ 進学面接を実施し、個々の進路希望の把握と、段階に応じた適切なアドバイスの提供に努める。	B	○ ガイダンスは例年通り行い生徒への情報提供を行うことが出来た。進学面接の回数が少なかったため適切なアドバイスをすることが十分に出来なかった。今後はもっと生徒と面接をする機会を多くし適切なアドバイスを送れるよう心掛けたい。	B	○ 例年通りのガイダンスを行うことが出来生徒への情報提供を行うことが出来た。生徒達が進学指導室に相談に来てくれる数が徐々に増えてきて生徒たちが率先して行動してくれるようになってきた。	○ 来年度から1年生がオール普通科になっていくためガイダンスのあり方について検討していく必要がある。2年生、3年生についても惰性にならずより良い指導が出来るよう協力してやっていきたい。
	放課後講習や夏期講習の方法について、引き続き検討していく必要がある。また、講習を通して身についた学習姿勢が継続できるよう、声かけや指導を継続していくことが大切である。進路決定後の学習指導方法についての検討も急務である。 校外模試の分析報告会の参加を呼びかけ、教員が共通理解と連携の意識を持って1人1人の生徒に対応していく土壌つくりに努めたい。生徒に対しては事前学習用教材を十分活用するよう指導を徹底する必要がある。	○ 生徒の学習の習慣化、学力の向上を図る。校外模試にも力を入れGTZの向上を目標とする。	○ 長期休業中や放課後の講習等を実施し、積極的かつ継続的に学習する姿勢の定着を図る。 ○ 校外模試の実施および事前・事後の指導に力を入れ、目標を持って計画的に学習に取り組む環境を作る。	B	○ 長期休業中や放課後の講習の参加者が少なく生徒の学習の習慣化を図ることがあまり出来なかった。今後はより講習への積極的な参加を呼びかけより学習の習慣化を図りたい。	B	○ 推薦やAO入試での進学先決定後の検定受験の義務化等進学先で困らないよう最低限の学習の習慣化が図れてきたのではと思う。1，2年生にも自分達から率先して過去の入試問題等を聞きに来る生徒が少しずつ増えてきている。ただ、GTZの飛躍的な向上までには至っていない。	○ 全員が進学希望ではないため進学用のICT教育に力を入れていくことは難しいかもしれないが、普通科のノウハウを取り入れながら進学希望生徒の為の学習指導の在り方を変えていく必要がある。
	入試形式の多様化、インターネット出願の導入が進む中、担当者は今まで以上にそれぞれの出願方法の理解と確認に努める必要がある。	○ 受験手続きの不備が無いように指導を行う。	○ 担任と連携をして出願手続きの指導、確認を行い、受験に備えさせる。	B	○ 2学期以降が本番だが少しずつ準備をすることが出来た。	B	○ 何件か受験手続の不備があったがその後の対応がきちんと出来、全員出願した学校を受験することが出来た。	○ 入試形式の多様化に対応できるよう今迄以上の理解と確認に努めていく。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
人権教育推進部	○ 人権教育全体推進計画は、毎年、見直しをしているが、近年、大幅な改定は行っていない。生徒の実態もいくらか変化し、新たに導入すべき観点や手法もあると考えられる。全般的に見直した方が良いように思われる。	○ 人権教育全体計画の見直しを受けて、まず生徒の実態を把握し、思いやりの気持ちを育みたい。生徒一人ひとりが日常生活の言動を再点検し、からかいや悪ふざけの防止を自らのこととして受け止め、いじめや差別をゆるさない姿勢を養わせたい。	○ 人権学習を、全体学習として行うなど、生徒の関心を高められるよう、創意工夫につとめる。 ○ 前年度に引き続き、言葉遣いアンケートを実施する（2学期実施・3学期とりまとめ報告予定）。	B （ ）	○ 1年生導入学習、2年生部落差別問題学習を全体学習と人権劇を通して行い、生徒の興味関心を高めることに尽力した。 ○ 言葉遣いアンケートは2学期実施予定。従って、評価できず。	B B	○ 1年生導入学習、2年生部落差別問題学習を全体学習と人権劇を通して行い、生徒の興味関心を高めることができた。 ○ 言葉遣いアンケートは2学期終業式までに全クラス実施し、3学期1月中に集計ができた。被害生徒へのフォロー、正しいことば遣いへの啓発を実施中。	○ 全体学習とともに、グループ学習で学習意欲を高められるよう、資料調査・研究を進めたい。「差別解消三法」を全体計画に組み込んだが、具体的取り組みに活かしたい。 ○ ことば遣いアンケートの実施時期について、2学期中間考査頃に実施・2学期中に集計し、3学期にフォロー、啓発が望ましい。
	○ 2016年度は、いわゆる障碍者差別解消法、部落差別解消推進法などの人権に関わる法令が成立した。人権尊重社会を実現するための勢いがついたように考えられる。この好機を捉え、よりいっそう、人権教育の推進をはかりたい。	○ 前年度の法的整備を受けて、これまでの人権教育を総点検し、新たに導入すべき観点や手法について研究し、差別をゆるさない人権教育の推進をめざしていきたい。	○ LHRにおける人権教育を見直す。部落差別問題を中心に据えながら、さまざまな人権課題への対応をめざしたい。たとえば、インターネットによる差別問題、性的マイノリティの人の人権問題など研究を進める。また、人権教育講演会でも新たな視点・手法をさぐりたい。	B	○ 人権ホームルームについて、性的マイノリティの人の人権問題を扱ったり、部落差別問題の学習では人権劇を導入するなど、新しい試みを意欲的に行った。講演会も芸術鑑賞を行ったり、講演予定者との日程調整も進んでいる。様々な人権課題についてはまだ研究中であり、各学年部との連携は不十分である。	B	○ 人権ホームルームについて、性的マイノリティの人の人権問題を扱い、部落差別問題の学習では人権劇を導入するなど、新しい試みを意欲的に行った。講演会も生徒対象に芸術鑑賞会を行い、教職員対象に人権講演会を実施した。特に後者を通じ、人権ホームルームへの学習課題を共有できた。	○ 部落（同和）問題を中心に、さまざまな人権課題に引き続き取り組むと同時に、新しい課題へのチャレンジが必要である。たとえば、インターネットによる差別問題への対応は喫緊の課題である。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
環境保健部	○ 各教室の清掃や学期ごとの大掃除などでは、熱心に清掃に取り組む姿勢が見られる。教室以外の清掃や部活の清掃にも注意が必要。 ○ ごみの分別において不十分な面があった。今後も継続した呼びかけが必要。 ○ 環境美化に取り組む意識は少しずつ育まれていると感じるが、電灯のスイッチ破損やゴミの投棄など自らの生活環境を守ろうとする意識にまだ欠けている生徒が見られる。環境美化、環境保全に取り組む意識を育てていきたい。 ○ 各講演会、研修会を行っているが、生徒が積極性に欠ける様子が見られるので、内容を吟味するとともに、環境や健康に対する意識を高めていきたい。	○ 環境美化、環境保全に努め、勤労を尊重する精神、社会に貢献しようとする意欲を育成する。 ○ 安心・安全な学校生活が送れるよう施設・設備・備品を管理する。 ○ 生徒の健康保持・増進を図る。 ○ 生徒が安心・安全に学校生活を送れるように、また、災害から生命、身体を自らの力と協力で守れるようにする。	○ 各教室の掃除の徹底。 ○ 美化の日を設定し、環境美化の推進を図る。 ○ 学校周辺の地域美化活動を実施する。 ○ 省エネ、ゴミの分別などを通して、環境にやさしい生活を考えさせる。 ○ 備品等を整理し、管理を正確に遂行できるよう、工夫する。 ○ 性教育の充実 （1年生対象講演会） （職員研修会） 救急救命蘇生法研修会 献血事業講演会 環境保健部講演会 ○ 1学期に火災避難訓練、2学期に地震避難訓練を行い、地震避難訓練については津波避難も想定して行う。	C B B B	○ 日々の清掃や美化の日、大掃除の取り組みなど校内美化の取り組みはできるようになったが、省エネ、ゴミ分別などがまだまだ不十分である。 ○ 施設の修繕箇所の報告等逐次してもらっている。備品については整理が必要。 ○ 1年生対象の性教育講演会は、実施して、生徒も性に対して真摯な姿勢で考えることの大切さを学んだ。その他の講演会などはまだ実施できていなので、評価できない。 ○ 火災避難訓練を実施した。地震避難訓練は1学期中に計画実施の予定。	B B B B	○ 日々の清掃はもちろん、学期ごとの大掃除、 美化の日などの全校一斉清掃に対する取り組みなどにも教員、生徒が熱心に取り組んでいる様子が見られるようになった。 部室の清掃など、部活で行う清掃がゴミの分別など、不十分な点が残るので、今後の改善に取り組みたい。 ○ 修繕・補修については逐次報告していただいている。状況によって作業に時間差はあるが順次修繕・補修している。 ○ 1年生対象性教育講習会と献血事業講演会を実施した。 ○ 火災避難訓練と地震・津波の避難訓練を実施した。さらに、今年度はミサイル飛来避難訓練も実施することができた。	○ 各教室の清掃や学期ごとの大掃除などでは、熱心に清掃に取り組む姿勢が見られる。教室以外の清掃や部活動関係の清掃についても取り組みを見直さなければならない。 ○ 環境美化に取り組む意識は少しずつ育まれていると感じるが、電灯のスイッチ破損やゴミの投棄など自らの生活環境を守ろうとする意識にまだ欠けている生徒が見られる。環境美化、環境保全に取り組む意識を育てていきたい。 ○ 各講演会、研修会を行っているが、生徒が積極性に欠ける様子が見られるので、内容を吟味するとともに、環境や健康に対する意識を高めていきたい。 ○ 実際を想定した訓練ができるように工夫したい。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教育相談・支援	○ 個別支援、とりわけ学習支援に関しては、教科担のみに指導負担が増え、連携会を十分に持つことが出来なかった。 ○ 学年主任・担任が中心となり、担当先生方の活用・連携をいただく機会が少なかった。 ○ 教育相談・支援担当の先生方や個別対応されている先生方への研修参加等を促すことが出来た。 ○ 個別の支援計画の検討	○ 個別の教育支援計画の推進 ○ 入学時からの連携作り ○ 学校全体として支援理解を深める。	○ 教員同士、あるいは保護者と連携し、全校での支援を行う。必要に応じて関係機関と連携した支援を行う。 ○ 担任と教科担任との連携深め、支援の早期対応につなげる。 ○ 教育相談・学年担当の先生方を活用・協力して頂き、生徒のニーズの多様化に対応。 ○ 外部機関（医療・福祉等）をを交えた連携会議を定例化化していく。 ○ 研修会・講演会等の参加を積極的に促す。 ○ SC･SW・サポステ連携を通じて学校全体としての支援理解・学びを深めていく。	（ ） B B	○ 本年度より取り組んでおり、評価はまだ出来ないが、意識づけが図れている。 ○ 学年主任を中心とした支援、相談を行い、特に新入生の支援・相談に力を入れた。 ○ 各学年の教育支援・相談担当を活用するための情報交換の場を持ちたい。 ○ 定例化は図れていないが、必要に応じて、関係機関とのケース会議が持てた。 ○ 教育支援・相談担当の先生方をはじめ、多くの先生方の参加を求めたい。 ○ SC. SSWとの支援体制、サポステ連携が定着化した。	B B B	○ 1学年全体として、個別の支援計画作成への協力・推進が図られた。 ○ 学年主任を中心としたクラス支援、生徒支援の連携ができた。 ○ 支援、ニーズの多様化に対し、情報交換の場をより多く持つ必要がある。 ○ 教育相談・支援担当の先生方への研修会参加等を促すことが出来た。 ○ ニーズに広く対応し、連携が図れた。	○ 入学後、早期に取りかかり,教職員間で作成の流れを共通理解出来る様にしておく。 ○ 支援が必要な生徒の多様化、増加に対し、引き続き学年主任の協力、情報交換の場を持つ等の教育相談、支援体制のあり方を検討。 ○ 生徒理解の一助として、今後も出来るだけ多くの先生方に呼びかけたい。 ○ 教育支援・相談のコーディネーターが必要であると思われる。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒会	○ よりスムーズに生徒会から全校生徒へ伝える手段を検討する必要がある。そのために各クラスの委員長、副委員長、中央委員との連携を図りたい。また、時期的な活動にならないように、継続的に話し合いの場を持ち、生徒会が主体となって取り組む環境を作っていく必要があると感じた。	○ 生徒会活動の充実	○ 執行部を中心に各クラス中央委員と学校行事を充実したものにする。 ○ 運動部・普通科生徒の執行部への勧誘 ○ ボランティア活動の呼びかけをし、生徒の参加を促す。 ○ 他分掌と生徒会執行部のお互いの要請等により活動を計画・実施する。	B	○ スポーツ祭では執行部、中央委員、各部活動の生徒を中心に、協力して活動することができた。引き続き体育祭・文化祭が行われるが、充実したものになるように計画していきたい。 ○ 12月に行われる生徒総会で決定予定である。それまでに声掛けや活動に参加してもらうなどし、活動内容を知ってもらう必要がある。 ○ ボランティア活動は適宜案内し、多くの生徒が参加している。 ○ 学期末懇談時に駐車場整理を行った。今後も引き続き、他分掌との連携を取っていきたい。	A	○ 各行事において執行部が中心となり、滞りなく実施できた。今後も新たな試みや、見直しを図りながらよりよい学校行事としていきたい。 ○ 今後も継続して学校全体の取り組みであることを意識付けしていきたい。 ○ 各種ボランティア案内を行い、多くの生徒がボランティア活動に参加している。 ○ 他分掌との話し合いの場や活動など連携して活動できた。より充実したものになるように、今後も内容の検討をしていきたい。	○ 今年度は定期的に打ち合わせや話し合いができたが、より一層、生徒会が学校の中心として活動できる環境をしっかりと作っていきたい。 また、来年度より学校行事の大幅な見直しが行われ、学校祭として体育祭・文化祭が同時期に行われる。新たな取り組みとなるので、しっかりと話し合いの場を持ち成功に向けて準備を進めていく必要がある。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
総務部	○ 台風や大雪などで休校や時間変更等の場合の連絡がスムーズに伝わらなかった家庭がある	○ 志願者数の増大と入学者の確保 ○ 開かれた学校づくりの推進	・ オープンスクール、学校見学会の充実と参加人数の増大 ・ ホームページの充実 ・ メール配信システムの導入	B B	○ 第1回オープンスクールは野球部甲子園出場のため、日程が重なり中止となったが、申し込みは176名(保護者含む)であった。第2回(10/21実施)は予定通り行いたい。学校見学説明会は3回行い参加数は126名(保護者含む)であった。二学期は3回を予定している。 ○ メール配信システムの加入率は約半数(425名)であった。なるべく全員に加入してもらうように引き続き呼びかけていく。 ホームページの変更については現在企画中である。	A B	○ 学校見学説明会、オープンスクール、入学志願者ともに前年度に比べ増加した。 ○ メール配信システムの加入率が中間評価より増えなかった。ホームページについては現在も企画中である。	○ オープンスクールの開催時期などの運営の再検討 ○ メール配信システム全員加入 ○ スマートフォンに対応した新しいホームページの導入

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
一年部	○	○ 基本的生活習慣の確立	○ 「挨拶・返事」、「時間を守る」、「正しい服装」の定着を図る。	C	○ いずれの目標に対してもまだ意識が希薄である。まず意識づけることを目標に学年部全体で取り組みたい。	C	○ 元気よく自ら挨拶ができる生徒が少ない、服装面で繰り返し注意されるなど、まだ課題を残している。	○ 3つの目標を達成できるよう、HRや朝の見回りを通して根気強く指導、声掛けを継続していきたい。
			○ 睡眠、食事、健康面の管理に努め、充実した学校生活を送るよう指導する。		○ 学期初めは欠席・遅刻が少なかったが、徐々に増加傾向にある。気の緩みや生活の乱れがないよう、継続して指導したい。		○ 一時は精神的なストレスなどから欠席、欠課をしてしまう生徒が数人いたが、学校生活に慣れるに従い減少してきた。	○ 遅刻、欠席が連続する場合は早い段階で声掛けや家庭との連携を行い、長期化防止に努めたい。
		○ 学習習慣の確立	○ 授業に集中して取り組み、疑問点は早めに解消するよう指導する。	B	○ 提出物の期限厳守、授業中の態度など、指導を要する生徒が見られた。教科担当と連携しながら声掛けを継続したい。	B	○ 学習に向かう姿勢に課題の残る生徒もあるが、全体的には授業に取り組む様子、提出物の状況ともに改善が見られる。	○ 引き続き指導を徹底していく。
			○ 定期考査や検定試験などを目標に、日頃から計画的に家庭学習に取り組むよう指導する。		○ 各種検定試験に積極的に挑戦するよう、声掛けと雰囲気づくりに努めたい。		○ 定期考査や検定試験を目標に、自主的に学習に取り組む姿勢が少しずつ身についてきている。考査や検定前には、協力しながら学習する様子も見られ	○ 毎日の学習習慣の定着を目標に指導に努めたい。
		○ 家庭との連携	○ 学校からの配布物は必ず保護者に渡し、回答があれば必ず学校に提出するよう指導する。	A	○ 配布物の受け渡し以外にも「まちコミメール」登録、学校HPの確認などの呼びかけを行った。	A	○ 配布物の受け渡しは概ね良好であった。「まちコミメール」の登録家庭も増え、家庭との連絡をとりやすい環境が整いつつある。	○ 「まちコミメール」の未登録家庭に登録呼びかけを継続して行う。
			○ 状況に応じて保護者に直接連絡をとり、学校での様子や家庭での様子について情報交換を行う。		○ 遅刻・欠席が続く生徒や気になる言動がある生徒について、担任がこまめに家庭連絡をし、共通理解と連携を図った。		○ 生徒からの訴えがあった場合や心配な点があった場合は、早い段階で本人との面談および家庭への連絡を行った。その結果、家庭とスムーズに連携をとることができている。	○ 次年度も達成できるよう、継続して努力する。
		○ 人権意識の育成	○ 学校行事や学級活動を通し、互いを思いやり尊重する心を育む。	C	○ 新しい環境、クラスの中で違和感や疎外感を訴える生徒があった。全体指導やクラスでの指導を根気強く行いたい。	B	○ 様々な行事を通し、友人との交流を深め、クラスの絆も強まった。各クラスともかなり落ち着き、不安や不満を訴える生徒は少なくなった	○ 配慮を欠く言動によるトラブルが見られた。互いの価値観や感性を尊重し、相手を思いやれる人間に成長できるよう指導していきたい。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
二年部	○ 朝読書中の見回りの効果もあり各クラス始業のチャイムには着席し落ち着いた状態で朝礼に臨むことができた。 ○ 言葉遣いや態度が荒い生徒も一部いるが、継続して指導して行きたいと思う。	○ 基本的な生活習慣の確立	○ 朝のクラス見回りを継続し挨拶・服装の指導を行う。 また、遅刻者ゼロを目指し指導を行う。 ○ 人権教育を通し、自他を尊重する心を養う。また、集団生活の中で協力し思いやりのある言動が取れるよう促す。	B	○ 引き続き朝読書の時間の見回りを継続し、遅刻欠席をなくすよう務め、始業のチャイムには席についているよう呼びかける。 ○ QU調査の結果からも学校生活の満足度は高い数値になっているが、1人1人が自他を認め充実した生活を送れるよう人権教育の側面からも働きかけを継続する。	B	○ 朝の見回りの効果もあり各クラス始業のチャイムには落ち着いた状態で朝礼に臨むことができた。 服装指導で1回目で合格できる者が多くなった。ただ、再指導を受ける生徒が毎回同じような生徒になっていた。 ○ 実施された言葉遣いアンケートの結果から全体的には概ね良好ではあるが、人権教育の側面からも継続して指導する。	○ 今後も朝読書の啓発・朝の見回り・服装指導・遅刻をなくすよう継続して努める。 ○ お互いを思いやり・人権を尊重し合える学級づくりを目指し引き続き努力する。
	○ 毎時間の授業を落ち着いて臨めない生徒がまだ少数おりその都度指導を行った。提出物の期限を守り提出できるように指導を継続した効果もあり改善が見られた。	○ 学習習慣の確立と進路意識の高揚	○ 日々授業を大切にし提出物を期限を守って提出できるよう指導する。 ○ 面接・インターンシップ・進路学習などを通じ職業観と進路意識の高揚を促す。	B	○ 提出物の期限厳守、授業に集中して臨むことに対して継続して指導する。 インターンシップでは欠席者も少なく1人1人が真面目に務めていた。事後指導に繋げ今後の進路指導に役立てたい。	B	○ 追試を受ける生徒の数が昨年と比較して減少した。 ○ 日々の授業姿勢・進路目標の設定・各種検定の取得等今後も継続して意識の高揚を促していきたい。	○ 生徒一人一人が、希望の進路につけるように、生徒・保護者との連携を取りながら面談や指導を重ねて細やかに指導をしていきたい。
	○ ネクタイのつけ忘れなどがあったが、服装面は比較的良かった。学校内外を問わず松蔭高校の生徒である誇りと自覚を持ち制服の着こなしやマナーを守れるよう継続的に指導したい。 ○ 毎日の清掃活動では生徒・教員が共に協力して綺麗な環境づくりを心掛けることができた。	○ 愛校心を育む	○ 学校内外問わず制服を着こなし、気持ちの良い挨拶やマナーを守れるよう指導する。 ○ 毎日の清掃活動やクリーン作戦等に対し責任をもって行い校内美化に務める。 ○ 式典等で校歌がしっかり歌えるよう促す。	C	○ 登下校中の服装の乱れが一部見られた。挨拶の面に関しても生徒間で差がみられる。継続して指導に務める。 ○ 甲子園出場もあり自校を応援し校歌を一生懸命歌う姿も見られた。これを良い機会とし米子松蔭高校生としての自覚を更に育めるよう導きたい。	B	○ 制服の着こなし・挨拶・礼儀などの凡事徹底が今後も守れるよう取り組んでいきたい。 ○ 毎日の清掃活動では生徒・教員が共に協力して綺麗な環境づくりを心掛けることができた。	○ 3年生としてリーダシップが取れるよう自覚を持たせ、模範的な学校生活が送れるよう心がけさせる。

学年分掌	平成28年度末の状況	平成29年度の目標	具 体 的 方 策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
三年部	○ ・朝読書中の巡回指導により、遅刻はほとんどなく、着席し始業を待つ姿勢が定着した。 ・あいさつの声の大きさはまだまた不十分である。	○ 基本的な生活習慣の確立	○ 欠席・遅刻のないように、朝読書の時間に見回り、始業前には全員を席に着かせる。 ○ あいさつや服装の指導を徹底する。	B	○ 進路に関わるあらゆる場面で挨拶・礼儀・言葉遣いはもちろん、3年間で学んだ良い習慣が発揮できるように指導する。（実践）	B	○ 進路決定後に気持ちの緩みか、生活態度がたるみがちな生徒がいた。 ○ 全体的には落ち着いて生活できた。	
	○ ・授業に集中できる環境作りを強化した。 ・進路別の講話を通して、進路についてより深い理解が得られた。	○ 進路指導の充実	○ 進路合宿を通して、目標を明確にし、それに向かって計画的に努力する姿勢を身につける。 ○ 進路懇談や説明会を通してきめ細かに対応する。	B	○ 進路合宿を終えて、進路に対する意識が高まりつつあるので、目標に向かって取り組めるように全力でサポートする。	B	○ 就職・進学ともに結果を出してくれた。難しい目標にチャレンジし、乗り越える精神力を身につけたように感じる。 ○ 進路決定後、学習に対する意欲が薄れた生徒が少数見られた。	
	○ ・ネクタイのつけ忘れなどがあったが、服装面は比較的良かった。 ・言葉遣いや態度が荒い生徒も一部いるが、継続して指導して行きたいと思う。	○ 生徒指導の徹底	○ 非行・麻薬防止講演会を開催し、指導を受ける。 ○ 家庭との連絡を密にして生活の乱れを未然に防ぐ。 ○ 服装・礼儀・言葉遣いの徹底指導	B	○ 少数ではあるがネクタイを忘れたり、挨拶の声が小さいので引き続き指導していく。	B	○ 特定の生徒によるネクタイ忘れは相変わらず直っておらず、学校と各家庭が協力して指導することの大切さを改めて感じた。	
	○ 学校行事やクラス運営を通して、社会性・人間性を身につけて少しずつ成長した。	○ 社会性・人間性を養う	○ 進路決定に向けて、互いを尊重し、協力しあう関係をつくる。	B	○ 学校生活の中で、互いを尊重し、安心して過ごせる環境をつくる。	A	○ 学年行事、学年合唱を通して協力することの素晴らしさを感じた。 ○ これまでの三年間の思いを胸に、感謝の気持ちを表せる卒業式を迎えさせたい。	